

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成27年12月28日

協議会名:青木村地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
青木村	A路線(入奈良本・釜房方面)	前回利用者が増加した路線であるが、利用者の利便性の向上や定着を目指し、有線放送によるバス運行のお知らせや、老朽化により見づらい各バス停の時刻表の貼り替えを行った。	A 計画どおり実施された。	C 一日あたりの利用者は65.6人で、「85.3人以上」というNW計画には届かなかった。一便あたりの利用者数が3.9人と前年の6.0人から減少した。	スクール対象の保育園児、小学生数の減少が影響しているものと思われる。保育園児、小学生の利用者は学年によって人数の変動が大きいため、日中利用が見込まれる高齢者等にさらに村営バスの周知や利用促進を行いたい。
青木村	B路線(弘法・原池・洞方面)	前回利用者が微増した路線であるが、利用者の利便性の向上や定着を目指し、有線放送によるバス運行のお知らせや、老朽化により見づらい各バス停の時刻表の貼り替えを行った。	A 計画どおり実施された。	C 一日あたりの利用者は65.6人で、「85.3人以上」というNW計画には届かなかった。一便あたりの利用者数が1.4人と前年の2.1人から減少した。	スクール対象の保育園児、小学生数の減少が影響しているものと思われる。保育園児、小学生の利用者は学年によって人数の変動が大きいため、日中利用が見込まれる高齢者等にさらに村営バスの周知や利用促進を行いたい。
青木村	C路線(管社・当郷・殿戸方面)	前回利用者が減少した路線であるが、利用者の利便性の向上や定着を目指し、有線放送によるバス運行のお知らせや、老朽化により見づらい各バス停の時刻表の貼り替えを行った。	A 計画どおり実施された。	C 一日あたりの利用者は65.6人で、「85.3人以上」というNW計画には届かなかった。一便あたりの利用者数が5.3人と前年の5.6人から減少した。	日中便の利用者は増加している便があるが、保育園児、小学生の利用が減少した。保育園児、小学生の利用者は学年によって人数の変動が大きいため、日中利用が見込まれる高齢者等にさらに村営バスの周知や利用促進を行いたい。
青木村	D路線(田沢方面・村松方面)	前回利用者が増加した路線であるが、利用者の利便性の向上や定着を目指し、有線放送によるバス運行のお知らせや、老朽化により見づらい各バス停の時刻表の貼り替えを行った。	A 計画どおり実施された。	C 一日あたりの利用者は65.6人で、「85.3人以上」というNW計画には届かなかった。一便あたりの利用者は1.4人と前年の1.6人から減少した	日中便の利用者の減少が多かった。日中利用が見込まれる高齢者等にさらに村営バスの周知や利用促進を行いたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成27年12月28日

協議会名:	青木村地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>青木村は、長野県中部に位置する人口約4,500人の村である。長野県東信地方の拠点都市である上田市と隣接しており、旧来より就業、通学、医療、買い物等においては、上田市に依存が大きい地域である。総面積は、57.0km²であり、東西約8km、南北約10.4kmに広がっている。</p> <p>青木村東部は上田盆地の西端にあたり、平坦部が広がるものの、その他大半は山間部である。人口は、平坦地に集中するが、山間部にもまとまった集落が点在している。</p> <p>居住地域の標高は、500m(上田市境)から800m(弘法・入奈良本)と標高差が300mもある。村の中心から近い殿戸・夫神等の集落は、短い距離の間に標高差が約100mあり、急登坂となっているため、徒歩での移動は大きな負担となっている。</p> <p>以上のような地形から、交通不便者の生活を確保するために公共交通が必須な地域であるといえる。主な公共交通の想定利用者は、村内の保育園、小中学校への通園・通学する保育園児や生徒、村内施設を利用する高齢者、また千曲バス青木線を利用して上田方面へ通学・通院する住民である。そのため、各地区から施設やバスターミナルを行き来できるよう路線を設定し、生活交通のネットワークの構築を進めているとことである。</p>